

# まちづくり指標 令和5年度進捗評価

## 【住む】

集落・地域の活性化と移住・定住の促進

数値  
目標

転出超過を年間 245 人までは正  
(平成 27 年国勢調査：年間 359 人)

集落・地域の活性化と自主自立のまちづくりの推進。いつまでも住み続けられ生活しやすい環境づくりと移住希望者をスムーズに受け入れるための仕組みづくり。

【重点戦略数値目標の実績】 転出超過 年間 242 人 (R5 住民基本台帳ベースの参考数値)

## 【主な取組内容と今後の方向性】

地域おこし協力隊の活動に係るコーディネーターの継続的な配置や、地域おこし協力隊OB・OGによる移住支援団体の活動が本格化したことで、受入団体との連携や隊員の活動支援が強化され、協力隊の受入人数、任期終了後の定住率は目標値を上回る結果となった。今後も地域と密接に連携しながら、協力隊の受け入れ体制を維持していく。

また、公共交通の利用促進に関しては、利用者が著しく少なかった一宮北部地域において路線の一部を廃止し、地域が主体となった自家用有償旅客運送「三方繁盛つれてってカー」の本格運行がスタートするなど、効果的な路線見直しを行った。路線バス利用者数は近年減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたこと等を理由に利用者数は昨年度より約5千人増加した。今後も交通事業者との連携により、地域のニーズを踏まえた運行の検証や利用のPRに努めていく。

さらに、移住・定住の促進においては、定住コーディネーターの配置や近隣市町との合同移住相談会、空き家バンクのPRなど定住相談窓口を充実させ、移住前相談から移住後のフォローまできめ細やかな支援体制を強化したことで、空き家活用の相談件数、空き家バンク制度による登録物件に対する成約率はともに上昇した。今後も生活様式や働き方、価値観の変化等も踏まえながら、移住希望者に選ばれるための取組を進めていく。

その他、DX推進の視点からは、加速度的に社会のデジタル変革が進む中で、地域活性化と生活しやすい環境づくりをめざし、「いつでも・どこでも・かんたんに・安全に」手続や相談ができる環境の構築をスタートさせた。

重点戦略数値目標に掲げる転出超過数の是正に向けては、今後も各施策を横断的に展開し、庁内連携による移住定住促進を総合的に進めていく。特に、医療や福祉、買い物や公共交通など日常生活に関するサービスのデジタル化については、市民の様々なニーズを確認しながら導入検討を行う。また、行政手続きのオンライン化とあわせ、デジタル化の流れからすべての人が取り残されないために、デジタル社会に適応する学びの機会の提供を進めていく。

## 【評価に関連する主な基本施策・個別施策とまちづくり指標実績】

関連する 基本施策・個別施策	まちづくり指標				
	指標名	単位	現状値 (R2)	実績値 (R5)	目標値 (R8)
参画と協働・男女共同参画の 推進 ①自主自立のまちづくり	地域おこし協力隊員の受入人数【累計】	人	12	20	18
生活圏の拠点づくりの推進 ①生活圏の拠点づくりの推進 ②公共交通ネットワークの充実	路線バス利用者数【延べ】	人	286,163 (R1)	230,916	254,700
移住・定住促進の充実 ①移住・定住の促進 ②空き家活用の推進	地域おこし協力隊員の任期終了後の定住率【累計】	%	57.1	80.0	60
	空き家利活用などの相談件数	件	45	81	107
	空き家バンク制度による登録物件に対する成約率(5年間平均)	%	33.6 (H28~R2 平均)	39.4 (R1~R5 平均)	現状値以上 (R4~ R8平均)

## 【働く】

## 雇用の創出と就職支援

数値  
目標就業率の現状維持  
(平成27年国勢調査：56.9%)

産業の活性化と異業種連携による雇用創出に向けた積極的な産業振興策や女性や高齢者等の就業促進による地域経済の活性化。市内又は通勤圏内での若者の就職支援の取組。

【重点戦略数値目標の実績】 就業率 57.8% (R2 国勢調査結果の参考数値)

## 【主な取組内容と今後の方向性】

林業分野においては、森林経営計画を策定した森林での搬出間伐の実施や、条件不利地の森林での切捨間伐の費用支援など適切な森林の整備を進めるとともに、CO<sub>2</sub>排出量を取引によって実質的に削減することができる「市有林J-クレジット創出事業」の取組を開始し、人工林整備率は40.9%と順調に上昇している。しかし、林業事業体数や県立森林大学卒業生の市内就職者数は昨年度実績よりも低下しており、林業の担い手の確保・育成に課題が残っている。今後は、兵庫県が実施している就業相談会や宍粟市総合的な仕事の相談窓口「わくわ〜くステーション」の活用、インターンシップの実施など、市内企業と学生のマッチングに向けた取組と連携を図っていく。

また、農業分野では、水稻生産において新たに「みかたの舞」をブランド化し、付加価値の向上等による販売促進を図るとともに、生産者自らが販売を行う「宍粟 de 朝市」の取組支援を行った。しかし、高齢化等の理由から認定農業者数は昨年度より減少し、耕作放棄田率も微増する結果となっており、林業分野と同様に担い手の確保等が課題となっている。今後は、農業経営に必要な機械の導入支援等を通して意欲的な農業者を認定新規就農者へ誘導するとともに、認定新規就農者には定期的な営農相談等を通して認定農業者への誘導を図っていく。

さらに、商工業分野では、「わくわ〜くステーション」において手厚い就職・就労支援を継続し、窓口の周知に努めたことで、窓口を通じた就職者数は昨年度を大きく上回り、令和8年度目標値を上回る結果となった。その他、宍粟市人財力フル活用プラットフォーム推進会議を主体とした合同企業説明会の開催やビジネスマッチングフェアへの参画、実践型インターンシップの実施を通して、市内企業の魅力発信や人材育成に努めており、今後も取組を継続していく。

その他、DX推進の観点からは、地域産業におけるデジタル活用の可能性を追求するため、商工会等へのヒアリングを実施した。

重点戦略数値目標に掲げる就業率の上昇に向けては、地域における人材不足が課題となっていることから、現行の取組に加えて、多様な人材を確保していくために、市内事業者と副業人材とのマッチングを支援することで、副業人材の専門的知識を活用した販路開拓やDX推進、事業転換など、経営課題の解決をめざす市内事業者の取組の支援を進めていく。

## 【評価に関連する主な基本施策・個別施策とまちづくり指標実績】

関連する 基本施策・個別施策	まちづくり指標				
	指標名	単位	現状値 (R2)	実績値 (R5)	目標値 (R8)
<b>林業の振興</b> ①宍粟材流通の拡大促進 ②担い手の確保・育成 ③林業生産基盤の整備	林業事業体数	組織	23	28	28
	森林大学卒業生の市内森林林業関係企業などへの就職者数	人	0	2	6
	人工林整備率(間伐事業)	%	33.8	40.9	44.6
<b>農業の振興</b> ①生産の振興と流通の促進 ②担い手の確保・育成 ③農業生産基盤の整備	認定農業者数	人	32	31	44
	集落営農組織	組織	63	63	69
	耕作放棄田率	%	10.5	11.1	現状値以下
<b>商工業の振興</b> ①中小企業の経営安定化 ②企業誘致の推進と起業家支援 ③6次産業化・産業間連携の促進 ④就職支援の充実	総合的な仕事の相談窓口(宍粟わくわ〜くステーション)を通じた就職者数	人	181	225	192

**【産み育てる】  
少子化対策**

**数値  
目標**

年間 165 人の出生数  
(令和 2 年国勢調査：年間 202 人)

女性が自分らしく活躍することができる社会の構築。結婚や子育て等への不安・問題の解消やそれを望む人の願いが叶う取組の推進。子どもや子育て世帯が安心して暮らせる地域実現に向けた取組。

**【重点戦略数値目標の実績】** 出生数 131 人 (R5 住民基本台帳ベースの参考数値)

**【主な取組内容と今後の方向性】**

子育て支援の充実では、子育て世帯の孤立が不安視される中で、妊娠から出産、子育て期まで切れ目のない伴走型支援体制の強化を図るため、子育て支援課（こども家庭支援センター）の新設に向け、子育てに係る窓口の集約を図った。子育て支援センター利用組数については、令和 4 年度より 46 組増加し、コロナ禍前の水準に回復したが、大きな利用者の増加にはなっていない。今後は、現在進めている市内各子育て支援センターへの木製玩具整備を完了させるとともに、誕生祝い品事業において宍粟材を活用した木製玩具を充実させ、子どもたちの豊かな感性を育む取組を推進する。

また、学校教育の充実では、食材費が高騰する中でも学校給食における保護者の経済的負担の軽減を図りながら、地元食材を使用した安心安全で質の高い給食を提供した。新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行し、給食の提供は概ね平常時に戻ったが、食材生産者の高齢化等に伴う廃業や規模縮小、天候に左右される農産物の確保等が今後の課題となっている。今後は、JA や市内業者等との連携により安定した食材の確保に努め、継続して食育に取り組むことで子どもたちの心と体の成長に向けた基盤づくりを進めていく。

さらに、移住・定住促進では、出会いの場の創出・結婚支援として、近年の未婚化・晩婚化の傾向を踏まえ、婚姻数の増加に向けて各種婚活イベントや消防団出会い応援事業を実施したが、結婚相談員や結婚相談所を通じた成婚者数は実績なしとなった。今後は、出会いの形が大きく変化している状況を踏まえ、現行の取組だけではなく、兵庫県出会いサポートセンターと連携したマッチングアプリの利用相談会の開催など、現在主流となっているインターネット型の出会いサービスを組み合わせ合わせた結婚支援にも取り組んでいく。

重点戦略数値目標に掲げる出生数については、令和 2 年度実績値と比較して大きく減少しており、次年度以降に向けて大きな課題となっている。少子化・出生数の減少は全国的な傾向であるが、結婚から妊娠、出産、子育てに関する不安を取り除く取組や、地域や社会で子育てを支える体制づくりをこれまで以上に強化して進めていく必要がある。今後は、DX の視点も踏まえ、子育て関連アプリによる子ども・子育て世帯への情報発信など ICT を活用した取組を実施するとともに、それらの効果的な活用方法について研究を進めていく。

**【評価に関連する主な基本施策・個別施策とまちづくり指標実績】**

関連する 基本施策・個別施策	まちづくり指標				
	指標名	単位	現状値 (R 2)	実績値 (R 5)	目標値 (R 8)
<b>子育て支援の充実</b> ①子育て支援の充実 ②地域や社会で子育てを支える体制づくり ③保育ニーズへの対応	子育て支援センター利用組数【延べ】	組	499 (R1)	493	603
<b>学校教育の充実</b> ①生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）の育成	食べよう宍粟のめぐみ（給食用地元食材）利用率	%	70.6	70.2	77.5
<b>移住・定住促進の充実</b> ③出会いの場の創出・結婚支援	結婚相談員や結婚相談所を通じた成婚者数	組	3	0	5

**【まちの魅力】**  
**選ばれるまちづくり**

**数値  
目標**

年間 116.5 万人の観光入込客数  
 (令和元年度：97.9 万人)

森林(もり)の魅力を中心とした様々な体験を通じてイメージや認知度を向上。播磨圏域連携中枢都市圏等との連携による広域的な魅力発信。訪問、滞在など交流人口、出身者やしごと・学びなどによる関係人口の増加。

**【重点戦略数値目標の実績】** 観光入込客数 82.9 万人

**【主な取組内容と今後の方向性】**

観光の振興では、令和6年度に実施する環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」に向け、登山・サイクリング開催ルートに位置する氷ノ山三ノ丸・東山の展望台の修繕を行うなど、観光客やイベント参加者の受け入れ体制を整えた。また、「日本酒発祥の地・発酵のふるさと“しそう”」をめざし、宍粟市発酵のまちづくり推進協議会を中心とした「しそう酒粕フェア」や発酵料理教室の開催や、各種イベントでの甘酒「にわの栴(はな)」のPRに取り組むとともに、民間企業の営業ノウハウを活用した宍粟市営業部の活動を継続して実施し、市の知名度向上、積極的な誘客を図ったが、観光入込客数、道の駅利用者数及び森林セラピー体験者数については、いずれも実績が伸び悩んでおり、コロナ禍前よりも厳しい数値になっている。

観光入込客数と道の駅利用者数については、暖冬に伴う雪不足によりスキー場並びに周辺施設の入込客数が減少した影響が大きい。そのため、今後は、温泉施設など季節や天候に影響されにくい施設や、コロナ禍以降入込客数が増加しているアウトドア施設において、情報発信を強化していく。

また、森林セラピー体験者数については、企業向けの周知や営業活動を強化したことで、企業関係の申し込みは増加しているが、令和5年度は団体・旅行会社等のツアーで天候不良等による中止があったことが大きな減少の要因となっている。今後は、ふるさと宍粟観光プラットフォームにおいて観光関連事業者との連携を図っていく予定であり、企業向けの営業活動を引き続き実施しながら森林セラピーの周知を進めていく。

さらに、森林・田園・まち並み景観の保全においては、宍粟の歴史・文化や人の営み、生業や里山、季節など、一人ひとりが思い描く有形無形の「風景」とその想いを募集し市民に紹介する、デジタル写真展「後世に伝えるふるさと風景展」を開催し、環境や景観保全の意識と郷土愛の醸成を図った。

また、DXの視点からは、スマートフォンを多用する若年層への情報発信の強化として、SNS等での市の行政情報やイベント情報配信に努めるとともに、しそうチャンネル(ケーブルテレビ)やしーたん通信(音声告知機器)を活用したきめ細やかな情報発信を行った。

その他、選ばれるまちづくりに向けては、森林セラピー以外にもふるさと宍粟観光プラットフォームを活用し、地域や観光関連事業者・団体などとの連携体制を強化するとともに、他自治体との広域連携の取組を推進し、インバウンド獲得に向けた多言語対応などの利便性向上を図っていく。また、2025年に開催される大阪・関西万博の機会を生かして宍粟市への誘客を図るため、「しそう森林王国」と呼ばれる宍粟市の豊かな自然資源の魅力観光客に実体験に近い形で提供する観光VR動画を制作し、関係人口・交流人口の増加、観光入込客数の増加を図っていく。

**【評価に関連する主な基本施策・個別施策とまちづくり指標実績】**

関連する 基本施策・個別施策	まちづくり指標				
	指標名	単位	現状値 (R2)	実績値 (R5)	目標値 (R8)
<b>観光の振興</b> ①観光資源の有効活用 ②体験型ツーリズムの推進 ③観光客受入体制の充実 ④魅力の発信の強化	観光入込客数【延べ】	千人	979 (R1)	829	1,165
	道の駅利用者数【延べ】	千人	422 (R1)	300	441
	森林セラピー体験者数【延べ】	人	597 (R1)	600	3,000